



鶏 鳴

2011年4月10日(第46号)

イエスの言葉

『明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日自らが思い悩む。その日の苦勞は、その日だけで十分である』

聖書(マタイ福音書6章34節)

牧師 河合裕志

『明日のことまで思い悩むな』、これはイエスの命令だけれど、ハイわかりました、そうします、などとは一寸言えないのでは？明日のこと、将来のことをいつもいつも思い悩む、思い煩ってしまうのが私達。何を食べようか、何を飲もうか、何を着ようか始終心配している。

こんな私達にイエスは実に素朴なことを言う。『空の鳥をよく見なさい。種も蒔かず、刈り入れもせず、倉に納めもしない。だが、あなたがたの天の父は鳥を養ってくださる。あなたがたは鳥よりも価値あるものではないか』。あんな小っちゃな鳥も生きていけるように天の父(神)が食べ物を用意している。それなら一層に天父はあなた方人間のために配慮してくれている。任せておきなさい、という次第。

そしてまたこんな風にも言う。名調子なので少し長いけど引用してみる。『野の花がどのように育つか注意して見なさい。働きもせず、紡ぎもしない。しかし言うておく。栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。今日は生えていて明日は炉に投げ込まれる野の草でさえ神はこのように装ってくださる。

ましてあなたがたにはなおさらのことではないか』。

アネモネの花だろうか、この一輪にイエスはソロモン王の豪華な衣装にまさる美を見た。とに角心配しなさんなよ、天の父に任せておきなさい、必要なものは与えられるから、とイエスは重ねて説く。

こんな神がいて、いつも人間の必要を心配してくれれば信じられるなら、それは幸いなこと。あんまり明日のことは心配しないで心軽く過せるというもの。子供のことを心配してくれる父親のような神を信じなさい、とイエスは真剣に訴える。

明日のことまで思い悩むことはないよ。明日のことは明日自らが思い悩んでくれるから明日に任せておいたらいい。あしたはあしたの風が吹く。明日負うべき苦勞をわざわざ今日に持って来ることはない。今日は今日、明日は明日。一日一日を精一杯生きればいいんだ。あんまり先々のことまで考えて悩むことはない。天父は明日、将来のことをよく考えてくれているから安心して委ねていなさい、とイエスは言う。全然将来のことを考えるなということではなく、天父の配慮の必ずあることを信じつつ心を楽にして歩みなさいということ。

案内

主日礼拝	: 毎日曜日午前10時15分
主日夕拝	: 毎日曜日午後6時
子どもの教会	: 毎日曜日午前9時
中高青年会	: 毎日曜日礼拝後
おしゃべり会	: 毎木曜日午前10時
聖書を学ぶ集い	: 第4水曜日午前10時